

令和 5 年 6 月 29 日現在

機関番号：32507

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2022

課題番号：18K13123

研究課題名（和文）発達差と保育者の評価は、幼児の運動・スポーツへの積極性に影響するか？

研究課題名（英文）Do Development Difference and Evaluation from Teachers Affect Awareness of Physical Activity among Young Children?

研究代表者

上村 明（Kamimura, Akari）

和洋女子大学・人文学部・准教授

研究者番号：10785041

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,300,000円

研究成果の概要（和文）：本申請課題は、同一の年齢集団内における成長や発達の差異に注目し、相対年齢（月齢）、体格、運動能力、保育者からの運動に対する評価（理解）が子どもの運動・スポーツへの積極性にどのような影響を及ぼすかについて検証することであった。相対年齢（月齢）、体格、運動能力、保育者の子どもへの運動に対する評価（理解）および子どもの運動・スポーツへの積極性の関連について検討した結果、相対年齢、体格、運動能力は保育者からの運動に対する評価（理解）と密接に関連していること、保育者の評価が子どもの運動・スポーツへの積極性に影響し得る可能性が示された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本申請課題では、教育分野で注目されてこなかった保育者（指導者）の評価と子どもの積極性に焦点をあてた。保育者がどのような視点で子どもの運動能力や発達を評価しているのかを把握することは、保育者の課題を明確にでき、保育の質の向上に寄与できる。また、子どもの運動への積極性に影響を与える要因（相対年齢、体格、運動能力、保育者からの運動評価）を探ることで、子どもの運動への積極性を促進するための基礎データを提供することにつながる。さらに、今回、保育者の評価と積極性（特に楽しさ）の関連が示されたことで、プロスポーツにおいて相対年齢の高い選手が多く存在していることのメカニズム解明の一助になったと考えられる。

研究成果の概要（英文）：This study focused on differences in growth and development within the same age group, and examined how relative age (birth months), physical size, motor ability, and physical activity evaluated by nursery teachers affected children's willingness to engage in exercise and sports. The results showed that relative age, body size and athletic ability are closely related to the child's evaluation (understanding) of exercise by nursery teachers, and that the physical activity evaluated by nursery teachers (understanding) may influence the child's willingness to engage in exercise and sports.

研究分野：スポーツ心理学

キーワード：運動 相対年齢 幼児 保育者 評価 積極性

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

近年、子どもの体力低下や運動離れ問題が指摘されており(日本学術会議, 2011)、生涯にわたる健康の維持増進の視点から子どもの運動・スポーツ活動への積極的な参加促進が急務となっている。国内外の研究動向を概観すると、子どもの運動・スポーツ参加を抑制し得る一要因として「相対年齢(月齢)の差」が注目されている(Mush and Hay, 1999)。申請者らの研究では、「相対年齢(月齢)の差」に着目し、これまで3つのことを明らかにしてきた。まず、幼児期・児童期の子どもにおいて、同一学年間における相対年齢(月齢)で体格や運動能力に顕著な差が出現することを確認している(e.g. Kawata et al., 2012)。これは、同一の学年でみたときに、相対年齢が高いほど体格が大きく、運動能力も高いこと(発達が進んでいること)を示唆している。さらに、幼児期においては、相対年齢が体格、運動能力を媒介して保育者からの運動の評価(態度、意欲、技術、楽しさ)に影響を与えることを報告している(Kamimura et al., 2016)。つまり、月齢が高い子ほど体格が大きく、速く走る、遠くに跳ぶ、ボールを遠くに投げることができるため、保育者は、月齢の高い子の運動を高く評価(理解)する傾向にある。これは、保育者によるこどもの運動に対する評価(理解)が、発達差に由来する体格や運動能力に依存している可能性があり、幼児の運動発達に関する知識や理解が十分ではない可能性を示唆している。さらに、体育大学の入学者やトップアスリートにおいて、相対年齢による体格差が消滅した大人であるにもかかわらず相対年齢(月齢)の分布に偏りがあることが報告されている; 例えば日本のJリーガーは、4・5・6月生まれが多く1・2・3月生まれが少ない(e.g. Kamimura et al., 2014)。これら の報告から、幼少期の月齢による発達差は、体格、運動能力、保育者からの評価を媒介し、将来に渡る子どもの運動・スポーツ活動への積極性に何らかの影響を与えている可能性があるといえよう。

2. 研究の目的

本研究の目的は、幼児を対象に、相対年齢、体格、運動能力、保育者からの評価(理解)が子どもの運動・スポーツへの積極性に及ぼす影響について横断的に検討することである。

3. 研究の方法

(1) 保育者の幼児の運動能力・運動発達を評価(理解)する視点について実態を把握するため、保育者を対象に、質問紙調査を実施した。調査内容は、事前にレビュー(自由記述による予備調査)した内容をもとに質問項目を作成し、回答を求めた。

(2) 保育者がこどもの身体活動(運動遊び)に関する情報をどのように収集し、実際にどのような点を意識し活動が展開されているのかについて検討するため、(1)と同様に事前にレビュー(自由記述による予備調査)した内容をもとに質問項目を作成し、回答を求めた。

(3) 相対年齢(月齢)、体格、運動能力、保育者の子どもへの運動に対する評価(理解)および子どもの運動・スポーツへの積極性の関連について検討するため、関東圏内の保育所に在籍する幼児150名とその幼児を指導する担当保育者を対象とし調査を実施した。調査内容は、幼児の

体格（身長、体重）、運動能力（25m走、立ち幅跳び、ボール投げ）について測定を行い、幼児から運動に対する意識（積極性：好き嫌い、楽しさ、自信、あそびの頻度等）について個人面接法を用いて回答を求めた。さらに保育者から、質問紙を用いて、幼児のプロフィール（性別、学年、誕生日）、幼児の運動に対する評価について回答を求めた。

4．研究成果

（１）保育者の幼児の運動能力・運動発達を評価（理解）する視点について質的調査を実施し実態を把握した。その結果、「自身の保育経験」、「同年齢・同一学年のこども」、「上司や同僚の意見や助言」、「理論（年齢や月齢によらない）」、「専門家の意見」を参考に幼児の運動能力・運動発達を評価（理解）しようとしていることが明らかとなった。

（２）保育者がこどもの身体活動（運動遊び）に関する情報をどのように収集し、実際にどのような点を意識し活動が展開されているのかについて検討した。その結果、保育者におけるこどもの身体活動（運動遊び）に関する情報源は、属性により異なる可能性があること、半数以上の保育者が幼児理解および子どもにとっての楽しい活動かどうかを重要視して情報収集を行っていることが示された。また、体育・運動専門の指導者の存在は、保育者の運動遊び指導の満足度は高めるが、保育者の運動遊びに関する保育活動（指導）の自信には影響を及ぼしていない可能性が示された。

（３）相対年齢（月齢）、体格、運動能力、保育者の子どもへの運動に対する評価（理解）および子どもの運動・スポーツへの積極性の関連について検討した。その結果、相対年齢、体格、運動能力、保育者からの運動に対する評価（理解）は密接に関連していること、5歳児においては、保育者の評価が子どもの運動・スポーツへの積極性に影響し得る可能性が示された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 上村明、伊瀬玲奈、千葉県保育協議会調査・研究委員会	4. 巻 1
2. 論文標題 「こどもの運動遊び」に関する調査【集計結果報告書】	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 千葉県保育協議会調査・研究委員会報告書	6. 最初と最後の頁 1 - 44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件／うち国際学会 3件）

1. 発表者名 Akari Kamimura
2. 発表標題 Teacher's cognition on teaching equipment/facilities for physical activities
3. 学会等名 The 32nd International Congress of Psychology (ICP2020+), Prague Czech Republic. (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 上村明、村井梨沙子、神庭睦実、湊久美子
2. 発表標題 保育者におけるこどもの身体活動（運動遊び）に関する 情報収集と活用の実態（Information gathering and application by pre-school teachers regarding children's physical activity）
3. 学会等名 第74回日本体力医学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kamimura, A., Murai, R., Kawata, Y., Kamba, M., Nagasawa, T., Minato, K.
2. 発表標題 Effect of Sports Instructor on Teachers' Awareness of Children's Physical Activity in Nursery Schools
3. 学会等名 The 24th Annual Congress of the European College of Sport Science (ECSS2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kamimura A, Kawata Y, Izutsu S, Shibata N, Hirosawa M.
2. 発表標題 How much impact does physical activity enjoyment have on motor ability?
3. 学会等名 International Ergonomics Association Congress 20th, Florence, Italy. 2018.8. (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 上村明
2. 発表標題 保育施設における体育講師の導入は保育士の指導意識を高めるか？
3. 学会等名 日本社会福祉マネジメント学会第3回研究大会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	伊瀬 玲奈 (Ise Reina)		
研究協力者	村井 梨沙子 (Murai Risako)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 International Ergonomics Association Congress 20th, Florence, Italy.	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 The 24th Annual Congress of the European College of Sport Science (ECSS2019), Prague, Czech Republic .	開催年 2019年～2019年

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------